

ムンプス(おたふくかぜ)とムンプス(おたふくかぜ)ワクチン

ムンプス(流行性耳下腺炎)は“おたふくかぜ”とも呼ばれ、ムンプスウイルスによる感染症で、2～3週間の潜伏期間を経て、耳の下にある耳下腺と顎の下にある顎下腺が腫れます。腫れがひくまでは、感染力がありますので保育所・幼稚園・学校を休まなければなりません。腫れは1週間ほどでひきますが、ひどいと2週間ちかく腫れることもあります。合併症として、約2～10%の頻度で無菌性髄膜炎をおこすことがあるので注意が必要です。また、ムンプスが原因の難聴が5000～1万人に1人程度起こることがあり、難聴は片側のみが多いのですが、難聴になってしまうとまず治りません。その他、髄膜脳炎、睾丸炎、卵巣炎、膵炎などを稀ですが認める場合があります。

ムンプスに対しては現在有効な治療法はなく、ムンプス流行の対策はワクチン(生ワクチン)による予防が中心になります。ムンプス(おたふくかぜ)のワクチンの有効率は90～95%といわれています。ムンプスワクチンの対象は1歳以上で、集団生活に入る前(2歳～4歳頃)に接種されることをお勧めします。また、任意接種のため自費になります。ムンプスに実際に罹患された方は免疫がありますのでワクチンを接種する必要はありません。

ムンプスワクチンの副作用は接種後3週間頃に接種児の2～3%に一過性の耳下腺腫脹やワクチンによる無菌性髄膜炎が0.1%にみられます。この他、頻度は少ないのですが接種直後から翌日に、発疹やじんましん、発熱などの過敏症状が現れることがありますので、接種後15分は院内に留まられて問題ないのを確かめられて帰宅されるようにして下さい。以上のワクチンの説明文を熟読され、内容をご了承された上で接種されることをお願いいたします

たかおか小児科